

生徒作った緑石 駅西口広場に

学校のキャラ刻印「色々な表情探して」

【北広島】市内輪厚の白樺高等養護学校（山本貴路校長）の生徒が作ったコンクリート製品が、整備中のＪＲ北広島駅西口の広場「ゲートパーク」に使われることになった。同校のオリジナルキャラクター「しらつき」も刻まれており、生徒たちは「使われている様子を早く見たい」と声を弾ませている。

ゲートパークは、北海道日本ハムの本拠地球場「エスコンフィールド北海道」へとつながる幹線緑道の一部に、憩いの場として設けられる。生徒たちが作った製品は、緑地帯を囲む長さ60メートルの緑石24本と、一辺10メートルの立方体の境界石20個。来年3月の完成を予定している。

同校工業科では、コン

生徒たちが製作した一辺10メートルの立方体の境界石や長さ60メートルの緑石。しらつきやファイトースのマーク、地番が刻まれている



ＪＲ北広島駅西口で整備中の広場「ゲートパーク」に使う建築資材の製作に携わった白樺高等養護学校の生徒たち

製品には、同校で作ったことが分かるように「しらつき」を刻印した。キャラクターデザイナーは、市の地域おこし協力隊員伊藤あこたさんが担当。生徒たちがレーザー彫刻機を活用して、一つ一つに刻印を施した。

製作に携わった同校2年の竹山柊さん(17)は「レーザー彫刻機の習得に時間がかかったが、良い経験になった」と振り返る。同校2年の荒川拓さん(17)は「かわいらしいキャラクターが入った出来映えで、とても気に入っている。多くの人に見てもらいたい」と語る。

中にはウインクをしたキャラクターも。生徒たちは「他と違う表情のしらつきを探すのも楽しいと思う」と笑う。

ゲートパークは、地域活性化に向けたパートナーシップ協定を市と結ぶ不動産業日本エスコン(東京)が、複合ビルやマンション、公園などと合わせて整備している。再開発プロジェクトを進める同社北海道支店の大久保敬副支店長は「製品の完成度は非常に高い。市民にゲートパークを気に入ってもらうためにも、地元の学校の協力を得られてよかった」と話している。(丸山格史)